

## 第4回 海洋立国推進功労者表彰 受賞者リスト

## 1. 「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野

部 門	氏名・名称	年 齢	所 属	功 績 事 項
普及啓発	ほりえ けんいち 堀江 謙一	72	海洋冒険家	<p><b>【海洋冒険の経験を活かした海事思想の普及啓発】</b> 1962年(昭和37年)にヨットで世界初単独太平洋横断に成功したのを皮切りに数々の世界一周や単独太平洋横断に成功、海洋冒険家の先駆者として日本のみならず世界においても活躍。長年にわたり氏は海洋冒険による経験や知識を活かした様々な活動を通じて世代を問わず広く国民一般に海の魅力を発信しており、海事思想の普及に多大な貢献をしている。</p>
科学技術	こいけ いさお 小池 勲夫	67	琉球大学監事	<p><b>【海洋物質循環の先駆的研究】</b> 海洋における多くの先駆的な物質循環研究を通じ、沿岸環境保全の基礎となる科学的な知見の整備に貢献するとともに、地球温暖化をはじめとするグローバルな環境問題と海洋の関わりについての理解の深化に貢献した。地球圏・生物圏国際共同研究計画(IGBP)や日本学術会議、総合科学技術会議等の要職を歴任し、国内外の地球環境研究の推進にも精力を注いだ。</p>
地域振興	いわてけんりつ 岩手県立 みやこすいさんこうとうがっこう 宮古水産高等学校	—	岩手県	<p><b>【地域に密着した水産教育・産業の活性化】</b> 全国最初の水産専門の中等教育学校として創設され、多年に渡り水産教育への取り組みを続けてきた。かつては産業廃棄物となっていた、地場の未利用資源(スジメ、サケの中骨等)にいち早く着目し、商品化に成功。また、自治体や地元企業と積極的に協力し、地域産業の活性化にも貢献した。東日本大震災では被災したが、地域復興に向けた活動にも精力的に取り組んでいる。</p>
地域振興	せとうちこくさいげいじゆつさい 瀬戸内国際芸術祭 じゅういんかい 実行委員会	—	—	<p><b>【「海の復権」を目指した国際芸術祭】</b> 古来から交通の大動脈として重要な役割を果たしてきた瀬戸内海を舞台に、そこに散在する島々の歴史や文化を活かした「海の復権」を目指す壮大なアートプロジェクトを企画、海と島を会場に行われる世界で初めての国際芸術祭を実施。瀬戸内海の魅力を世界に向け発信するとともに島々の活性化や交流人口の増加、芸術祭関連の新たな雇用を創出するなど地域の振興に貢献。次回は2013年に開催する予定。</p>

※年齢は平成23年7月15日現在。

## 第4回 海洋立国推進功労者表彰 受賞者リスト

## 2. 「海洋に関する顕著な功績」分野


部 門	氏名・名称	年 齢	所 属	功 績 事 項
科学技術振興	すずき よしみ 鈴木 款	63	静岡大学教授	<b>【海洋の炭素循環やサンゴ礁の研究】</b> 海洋の炭素循環を解明するため、溶存有機炭素の測定法の開発・改良の研究を精力的に進めた。この成果をもとに、「サンゴ礁は貧栄養海域」という従来の定説に一石を投じる成果を上げた。さらに、サンゴの白化について新たな仮説を提唱・検証したほか、世界で初となるサンゴポリプ内部の研究手法を開発した。これらの成果はメディアでも多数報じられた。
海事	よした こういちろう 吉田 宏一郎	72	東京大学名誉教授	<b>【海洋構造物に関する研究開発】</b> 緊張係留プラットフォーム(TLP)の波浪中応答解析手法は係留索の信頼性を確保し大深水域におけるTLPの実用化を可能とし、世界の資源・エネルギー開発等に多大な貢献。また大水深域の海洋開発の安全面の観点から世界各国の構造解析の安全性評価手法として反映。新産業創出の可能性を有する超大型浮体式構造物による海洋空間利用に関する計画・設計の研究を行うとともに、海洋工学分野の技術者の育成にも尽力。
自然環境保全	よこはま やすつぐ 横濱 康繼	76	元南三陸町自然環境活用センター所長	<b>【海藻おしばを用いた自然環境教育活動】</b> 海藻学の専門家として環境省自然環境保全基礎調査、環境影響評価技術検討会に積極的に関与。また、自然観察会等、地域に根ざした環境教育を精力的に推進。特に学術的にしか用いられなかった海藻さく葉標本作製を「海藻おしば」に変えたことは社会的な貢献として特筆される。

※「水産振興」部門については該当者なし。

※年齢は平成23年7月15日現在。

## 2. 海洋に関する顕著な功績 分野

## 海洋に関する科学技術振興 部門

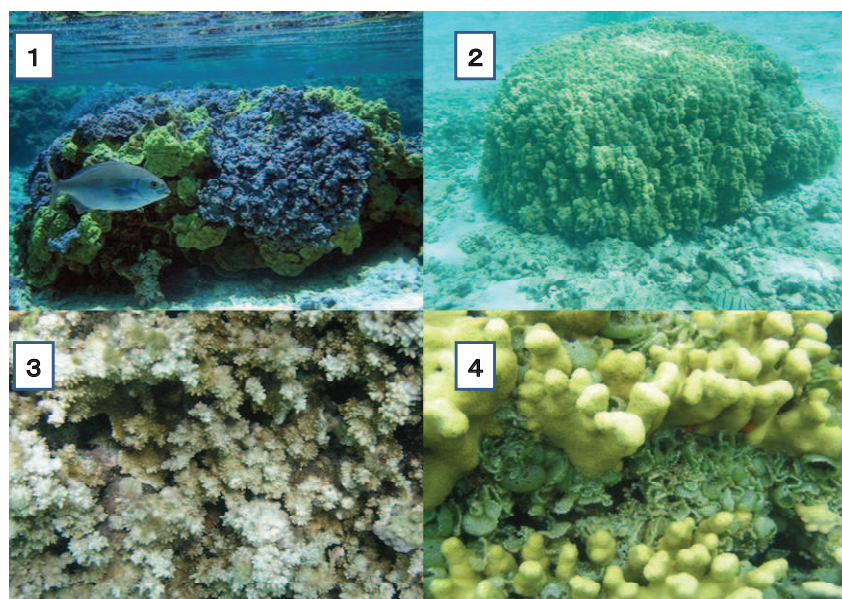
氏名又は 団体名称	すずき よしみ <b>鈴木 款</b>	年齢	63	
所属	静岡大学創造科学技術大学院自然科学研究部教授			
功績の概要	<b>海洋の炭素循環やサンゴ礁の研究</b>			

## 功 績 事 項

1. 海洋の炭素循環・有機物循環を解明する上で重要となる、溶存有機炭素の測定法の開発・改良の研究を精力的に進めた。この成果は国際的標準手法として推奨され、国際的海洋炭素循環の研究に貢献した。
2. サンゴ礁における世界で初めての有機物循環の研究において、サンゴ礁には従来考えられてきた以上に有機物が蓄積されることを明らかにし、「サンゴ礁は貧栄養海域」という従来の定説に一石を投じた。
3. サンゴの白化の原因について従来報告されていた学説を検証し、サンゴの白化について新たな仮説「高水温とバクテリアによる白化促進によるサンゴ内部での褐虫藻の死滅等」を提唱し、それを検証したほか、世界で初となるサンゴポリプ内部の研究手法を開発し、サンゴ・バクテリア・共生藻類・ビタミン・栄養塩・有機物循環の複合共生システムを検証した。これらの成果は、メディアでも多数報じられたほか、欧米の研究者の注目を集めた。



沖縄で学生にサンゴの生態と特性の説明



サンゴ 健全なサンゴ (1・2)  
白化したサンゴ (3)  
一部白化のサンゴ (4)